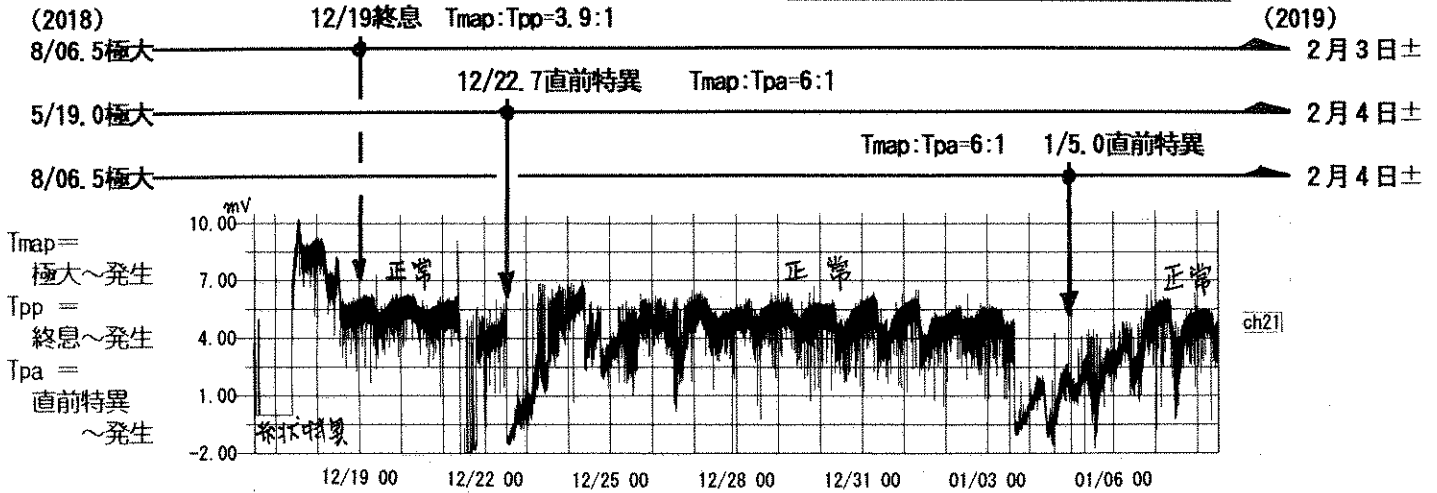


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期前兆 長野北部領域大型地殻地震の可能性 続報
2/4±発生の可能性



2008年07月より10年半継続した観測歴上最長継続前兆（これは歪み速度の小さい領域の地殻地震を示す）No.1778前兆の続報です。

昨年にはE-mailまたはFAXで配信しております「地震前兆検知観測情報」では、既に01月中発生の可能性は否定しておりましたが、HPでは遅くなりましたこと、深くお詫び申し上げます。

上波形はハヶ岳南麓のCH21基線です。2018年12月16日昼～2019年01月08日昼迄の基線です。CH21は2018年12月17日昼前に長期に渡り継続した特異状態が終息し、12/19からは静穏正常基線（基線電圧値も正常）を記録する様になりました。この終息が昨年08月06.5日極大に対する静穏化と見るのが適当であると判断し、02月初旬時期発生の可能性を考えました。

No.1778の極大は、2018年05月19.0日・08月06.5日と10月02.0日極大が最終認識です。

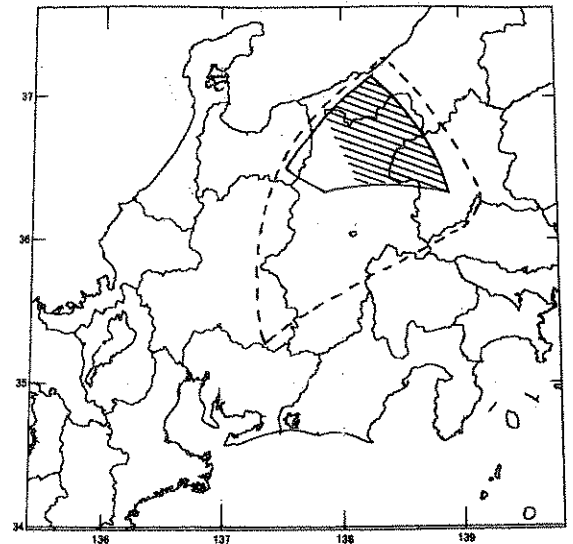
上波形のとおり、12/19に静穏化した後、12/22.7と本年1/5を中心とした2度、完全な系状特異ではありませんが、特異状態が出現しています。これらのCH21の特異前兆の変化を、旧年中に観測された極大に対応させて考えますと、上波形の上部に記した様な関係の認識が可能です。

CH34の基線幅増大BTの周期性の見直しからも02月04日±が計算できます。11月20日以降再出現したCH34のBTは別大型地震の前兆である認識です。

既に10年半継続した長期前兆No.1778前兆に関しては、全ての前兆が終息したと云う認識です。現在継続中の前兆はNo.3061前兆関連認識です。これが正しければ、02月04日±発生の可能性有です。今後現在の認識が誤りである前兆変化が観測された場合は修正続報を公開させていただきます。

★No.1778長期前兆は地殻地震のため、大変前兆期間が長い前兆でした。

通常の地震前兆は長くても数ヶ月～数週間、数日で発生となります。実は、昨年11月初旬より新たな前兆が観測されだし、12月に極大が観測されました。12月中旬過ぎには、別形態の前兆も出現しだし現在も継続しています。当該前兆群を解析した結果、No.1778前兆を遙かに凌ぐ、大変深刻な地震発生の可能性があることが判り、12月中から既にE-mail, faxで配信しております「観測情報」では報告公開しています。今月13～14日頃に前兆が消えた場合はNo.1778前兆の対応地震発生よりも早い、今月中に深刻な地震が発生する可能性も示唆されます。既に現状での発生日、推定発生時刻、推定規模、推定領域等の内容は公開実験参加者へは報告済みです。今月半は過ぎ、確認が得られた場合は、該当領域の地方自治体の防災課宛に通知を出す予定であります。現在の当方の地震前兆観測活動は「公開実験＝E-mail/faxでの情報配信」の参加者の皆様方の暖かいご支援で運営されています。その関係で全ての情報を広く一般公開できない状況です。しかし、実験参加者からも一般公開すべきではとのご意見も有、現在参加者の皆様はどうすべきか聞いています。可能であれば、数日前となってしまう可能性もありますが、本HPで公開する可能性もあります。ご注意ください。



- ◆推定領域：上図点線内＝大枠推定領域
斜線領域内＝可能性高い推定領域
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：2月4日±2 (2/4±1 可能性有)
(但し今後の観測で修正の可能性も有)
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
火山近傍領域の可能性
- ◇推定発生時刻：午前9時30分±1